

国外から移住した米国在住科学者・エンジニア数、2003年～2013年の10年間で  
340万人から520万人に増加（1月13日）

米国科学財団（National Science Foundation：NSF）は1月13日、2003年～2013年の10年間で、米国在住の科学者・エンジニアの数は2,160万人から2,900万人に増加し、米国外から移住してきた科学者・エンジニアの数も340万人から520万人に大幅に増加したことを明らかにした。NSF傘下機関の米国科学工学統計センター（National Center for Science and Engineering Statistics：NCSES）が発表した報告書によると、米国外からの移住者が科学工学分野における人材全体に占める割合は、同期間で16%から18%に増加したという。最新情報である2013年のデータからは、米国外から移住した科学者・エンジニアの63%は米国籍を取得し、22%は永住権保有者、15%は一時滞在ビザの保有者であることが示されているという。2013年に米国に在住していた国外からの移住者である科学者・エンジニアの出生地は以下の通り。

- ・57%の出生地はアジア。アジア出身科学者・エンジニア総数296万人のうち、インド出身者が最多の95万人で、上記10年間での増加率は85%。この他、フィリピン出身者が53%増で、香港・マカオを含む中国出身者が34%増。
- ・20%の出生地は北米（米国を含まない）・中米・カリブ諸島・南米。
- ・16%の出生地は欧州。
- ・6%の出生地はアフリカ。
- ・1%未満の出生地はオセアニア。

なお、NCSESによる報告書は、<<http://www.nsf.gov/statistics/2015/nsf15328/>>から閲覧可能。

National Science Foundation, Immigrants play increasing role in U.S. science and engineering workforce

[http://www.nsf.gov/news/news\\_summ.jsp?cntn\\_id=137354&WT.mc\\_id=USNSF\\_51&WT.mc\\_ev=click](http://www.nsf.gov/news/news_summ.jsp?cntn_id=137354&WT.mc_id=USNSF_51&WT.mc_ev=click)